

佐倉工場に太陽光発電設備を導入しカーボンニュートラルを推進 ～年間約 600t の CO₂ 排出量削減を見込む～

当社（本社：東京都千代田区、社長：中戸川 稔）は、カーボンニュートラルを推進すべく、当社グループの中核事業会社で、ユニック部門を担う古河ユニック株式会社（本社：東京都千代田区、社長：菅野 悌二）の佐倉工場（千葉県佐倉市）において、太陽光発電設備を導入し、このたび稼働を開始しました。本設備で創出した電力は佐倉工場の操業において自家消費し、年間約 600t の CO₂ 排出量削減効果を見込んでいます。これにより、佐倉工場の年間消費電力の約 26%を再生可能エネルギーで賄える計算となります。

当社グループは、サステナビリティへの取り組みに関するマテリアリティ(重要課題)の一つとして「事業活動における気候変動対策の推進」を掲げ、スコープ 1（エネルギー起源）、スコープ 2 の合計で 2030 年度までに 2023 年度比 25%削減、2050 年度までにカーボンニュートラルを達成することを目指しています。今回の取り組みは、これらの目標実現に向けた施策の一環です。

今後も当社グループは、各拠点における太陽光発電の導入を進めるとともに、省エネルギー生産設備への更新や購入電力の再生可能エネルギーへの切り替え等を推進し、CO₂ 排出量の削減に継続して取り組んでいきます。



佐倉工場太陽光発電設備

システム概要

所在地	古河ユニック株式会社 佐倉工場（千葉県佐倉市太田字外野 2348）
太陽光パネル面積	6,665 m ²
発電出力	1,535kW
想定年間発電量	約 1,470,000kWh
CO ₂ 排出削減見込量（年間）	約 600t
発電開始	2026年4月

【補足資料】

■カーボンニュートラルに向けたロードマップ



当社グループでは 2050 年度のカーボンニュートラルに向けて、スコープ 1 においては、フォークリフトの電動化や空調設備の電化、重油炉からLPG 炉への転換等のエネルギー使用効率の改善を行い、排出量の削減を目指します。

スコープ 2 においては、太陽光発電設備等の再生可能エネルギー発電設備の導入や省エネルギー生産設備への更新、再生可能エネルギーの調達等を行うことで、排出量の削減を目指します。

■会社概要

【古河機械金属株式会社】（東京証券取引所プライム市場 証券コード 5715）

本社所在地：東京都千代田区大手町二丁目 6 番 4 号（常盤橋タワー）

代表取締役社長：中戸川 稔

事業内容：鉱山開発で培った技術を受け継ぎ、現在では機械事業 4 部門（産業機械部門、ロックドリル部門、ユニック部門、アーステクニカ部門）と素材事業 3 部門（金属部門、電子部門、化成品部門）を展開しています。

創業：明治 8 年（1875 年）8 月

設立：大正 7 年（1918 年）4 月

資本金：282 億 818 万円

従業員数：〈連結〉2,889 人 〈単独〉207 人 [2026 年 3 月 31 日現在]

WEB サイト：<https://www.furukawakk.co.jp/>

【古河ユニック株式会社】（古河機械金属株式会社 100%子会社）

本社所在地：東京都千代田区大手町二丁目 6 番 4 号（常盤橋タワー）

代表取締役社長：菅野 悳二

事業内容：1961 年に国産初の車両搭載型クレーン「ユニッククレーン」を開発。ユニッククレーンは、トラックに搭載することで「吊る・積む・運ぶ・作業する」の一連の作業を効率化した荷役機械です。現在ではユニッククレーン、ミニクローラークレーンなどの製造・販売を行っています。

設立：1946（昭和 21）年 4 月

資本金：2 億円

従業員数：479 人 [2026 年 3 月 31 日現在]

WEB サイト：<https://www.furukawaunic.co.jp>

〈問い合わせ先〉

・ニュースリリースに関して
 ・太陽光発電設備に関して

古河機械金属株式会社 経営企画部広報・IR 課
 古河機械金属株式会社 サステナビリティ推進部

TEL : 03-6636-9501
 TEL : 03-6636-9537